



古典落語の決定版、滑稽噺で知られる「らくだ」を二人芝居に大胆アレンジ――

きな臭い時代背景の中、娘のため家族のため懸命に生きる父親の姿。抱腹絶倒の滑稽噺と涙を誘う人情噺が絶妙に絡み合う珠玉の物語。

脚本・演出 麻創けい子

新型コロナウイルス感染症対策として、マスクの着用や手指消毒などをお願いします。詳しくは、こどもステーション山口HPをご確認ください。

2020.8.30(日) 18:30開演(30分前開場) 上演時間 80分
山口市民会館 小ホール

【チケット料金 ※全席自由・未就学児入場不可】
前売 3,200 円(当日 3,700 円) / 25才以下 2,100 円(当日 2,600 円) ※残席がある場合のみ当日券発売
any会員 2,700 円 (1会員 4枚まで。当日は割引対象外) / こどもステーション山口会員 会員券配布

【チケット取扱い】こどもステーション山口事務局 / 山口情報芸術センター / 山口市民会館 / C・S 赤れんが
山口市文化振興財団チケットインフォメーション(山口情報芸術センター内) <https://www.ycfcp.or.jp/> Tel. 083-920-6111
セブンチケット: セブンコード 084-917
【託児】ひとり 700 円、二人目より 500 円 申し込み 8月 20日(木)まで

こどもステーション 山 口
高学年コース
舞台鑑賞会

チケット発売
7.11(土)
10:00 から



落語『らくだ』は、フグにあたって死んだ、らくだと呼ばれる男の兄貴分とくず屋（廃品回収業者）が繰り広げる江戸時代の滑稽劇です。らくだの葬式を出すために兄貴分はくず屋に無理難題をふっかけますが…。

今回の大胆アレンジ!!二人芝居「らくだ」では時代は昭和13年。登場するのは兄貴分とくず屋、ではなく紙芝居師。

二人はどんな笑いを巻き起こすのか、はたまた涙を誘うのか：乞うお楽しみにも!

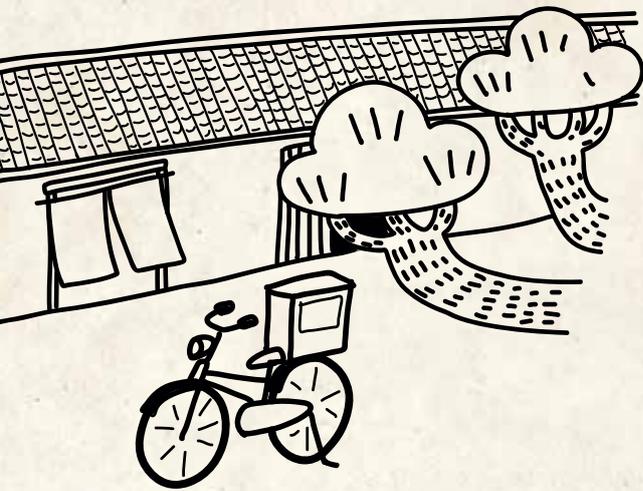
昭和13年と言えば、日中戦争のさなか、日本が太平洋戦争の泥沼へと傾斜していく時代です。子どもたちの娯楽、街角で人気を博していた紙芝居にも変化が表れました。紙芝居の絵の裏に文章を書くようになったのです。それまでの紙芝居の語りは、ほとんどが口伝で覚えたものでした。大筋は同じでも、紙芝居師によって長くも短くもなっていたわけです。

ではなぜ文章を書くようになったのか。「検閲」が始まったからです。大きな言い方をすれば、表現の自由の取り締まり。大きな口をあけて笑うこともはばかられる時代の前ぶれでした。

戦後75年が経ち、戦争はもう昔々の物語になりました。けれども、私たちは本当に平和を手に入れたのでしょうか。

現代を生きる本物の紙芝居師たちと、カメレオン役者石黒寛、この二人にしか演じられないドラマです。どうか、大笑いしてください。皆さんの笑い声と、登場人物の泣き笑いが、子どもたちの未来に、平和の灯を灯し続ける油の一滴になることを信じています。

脚本・演出 麻創けい子



はぐはぐ☆
カンパニー

石黒寛 俳優・声優・ナレーター

1985年、中日劇場にて初舞台。東海ラジオ「石黒寛です、みんな元気か!」で2年半パーソナリティを務め中高生の兄貴的存在となる。2005年、企画・創造チーム「ひと組」を設立。2008年、劇団「はぐはぐ☆カンパニー」を立ち上げる。2012年、松原英治・若尾正也記念演劇賞を受賞。2016年、二人芝居「らくだ」初演、全国巡演中。

川上竜生(通称 たっちゃん) 熱血紙芝居師

マーガレット一家所属。劇団うりんこ出身。優れたコミュニケーションツールである紙芝居の魅力にとりつかれ、紙芝居師の道へ。2007年、マーガレット一家を設立。「家族、仲間、そして世界中を笑顔にする」という野望に向かって、走り続けている。「ニッポン全国街頭紙芝居大会 in ぬまづ」三連覇! ユースシアターノースウエスト(シアトル/アメリカ)・コンサバトリークラス特別講師。



【問い合わせ】

こどもステーション山口 事務局 Open月～金(10:00-17:00)

Tel/Fax 083-925-1486

〒753-0047 山口市道場門前 2-4-20 国近ビル 2F
e-mail co26station@yahoo.co.jp <https://kodomo-st.org>

※any 会員については山口市文化振興財団 Tel 083-920-6111 まで

【主催】認定NPO法人 こどもステーション山口

(公財) 山口市文化振興財団

【後援】山口市 / 山口市教育委員会

